石崎奉燈祭の紹介

七尾市石崎町は、昔気質が今に残る活気あふれる漁師町。海の男達が一年に一度熱い血潮をたぎらせる祭りが石崎奉燈祭である。

この祭りは、その昔石崎八幡神社の納涼祭（お涼み）で、京都祇園祭の流れを汲んだ山車が繰り出されていたが、度重なる大火に見舞われ中断を余儀なくされた。町の復興が整い始めた明治22年、山車に代わり、網すき（網大工）の口添えで奥能登から古い「キリコ」を移入して再興したものが現在に受け継がれている。大漁祈願、五穀豊穣はもとより、火を恐れ鎮める神事としたことから「奉燈」と呼び、平成7年まで京都祇園社の例祭日にあたる旧暦6月15日に行われていた。

祭り当日、どこからともなく聞こえてくる祭囃子が祭り気分を盛り上げる。ねじり鉢巻に地下足袋を履き、きつく締めたサラシにお守りを携えた男達とそれを見守る女達。町中には「サッカサイ、サカサッサイ、イヤサカサー」と威勢のいい掛け声が響き渡る中、奉燈が練り歩く様はまさに圧巻。なにしろ1基を100人程で担ぐのだから、その統制ぶりも見事。夜には奉燈に灯火が献じられ、浮かび上がった武者絵や大書の墨字が幻想的な空間を醸し出す。クライマックスの奉燈の乱舞競演では、担ぎ手、観客の興奮は最高潮に達することだろう。

みどころ　堂前広場での乱舞競演は豪快!
立ち並ぶ家々の軒先をかすめて進む様は迫力満点!

◆東一区奉燈（旧呼称　前場出、小坂出）

大文字／魚満浦（ぎょまんのうら）（読み：魚が浦に満ちる）　町内カラー／緑

文字通り魚が満ち溢れる海岸や浜辺を表し、大漁を意味している。東一区の特徴は、奉燈が動き出す前に囃子と呼ばれる独特の祭囃子がある。昔はどの町の囃子にも使われていたが、現在は東一区と東二区だけが囃子を使っている。囃子の間、担ぎ手は体勢を保持したまま耐えたので足や腰に相当負担がかかった。また、東に神様の家と呼ばれる孫次郎の家があるため、堂前には東から順に入堂する。

◆東二区奉燈（旧呼称　十七軒山町）

大文字／満年楽（まんねんらく）（読み：満年　楽あり）　町内カラー／黄

東二区の代名詞は、裏の絵に使われる浦島太郎。なぜ、浦島太郎なのかはわからないが、昔から使われている。ごく稀に武者絵を使用するときもあるが、担ぎ手の話だと、なぜか浦島太郎以外の絵を使うと奉燈が重く感じたり、思うように動かないとのこと。

また、同じ浦島太郎でも亀に乗った絵と玉手箱を開けている絵があるが、亀に乗っている浦島太郎の絵が一番評判が良い。

◆東三区奉燈（旧呼称　左近殿山町、寺町）

大文字／志欲静（しよくせい）（読み：志静（こころざしせい）ならんと欲（ほっ）す）　町内カラー／赤

文字は、おそらく奉燈の欄間と呼ばれる部分に書かれた文字と対句と思われ、意味は、荒ぶることなく静かに志を遂げるよう願うこと、となる。昭和20年代から使用していることから、当時の世相を反映しているのではないかと考えられる。また、東三区と言えば、唯一法被の着用を禁止している町で、赤みを帯びた肌に町内カラーの赤パンツが映える。見事に統制された担ぎ手は必見。

◆東四区奉燈（旧呼称　三四郎山町）

大文字／智仁勇（ちじんゆう）（読み：智　仁　勇）　町内カラー／青

智仁勇とは史記に記述されており、智（知）は、是非・善悪を判断する能力を意味し、仁は、慈しみや思いやり。勇は、勇気や気力、雄々しさを意味する言葉で、もっとも基本的な三つの徳のことである。過去に一度だけ翔龍舞と言う文字を使ったことがあるが、今では幻の文字となった。また、最初に青一色の武者絵を描き上げた町で、奉燈に見事に調和し、微妙なコントラストを生み出している。

◆西一区奉燈（旧呼称　白崎）　町内カラー／白

大文字／襲銀鱗（おそうぎんりん）（読み：銀鱗（魚）を襲う）、郡魚舞（ぐんぎょまい）、銀鱗飛躍（ぎんりんひやく）

いずれも漁師町らしく、群れをなしていた魚が網にかかり、銀色の鱗をきらきらと輝かせながら、網の中で勢いよく舞うように飛び跳ねる様を表しており、大漁を意味している。裏の絵は、ほとんどの奉燈が武者絵を多く使っているが、西一区は観音様を使うこともある。現在の観音様の絵は何代目なのか定かではないが、不思議とこの絵を使うと奉燈がよく動き、何年も破れずに使われている。

◆西二区奉燈（旧呼称　中田浦町、中町）

大文字／満祥雲（まんしょううん）（読み：祥雲が満ちる）　町内カラー／桃

めでたい雲が空を覆う兆しと言う意味で、漁師が多い西二区では、夜空が明るすぎると魚が逃げてしまうため、雲で月を覆うことで大漁を予感させる前兆と言う意味にも使われているようだ。また、裏の絵は、漁をもたらす神の恵比寿様や鯉仙人を使うことが多く、大漁を祈願している。また、西二区と西一区は今でも明治以前に使われていた呼称である中町（なかちょう）、白崎（しらさき）と呼ばれることが多い。

◆西三区奉燈

大文字／慶雲飛（けいうんとぶ）（読み：慶雲が飛ぶ）　町内カラー／紫

西三区は新しくできた町で昔は海だった。当然、奉燈もなかったが、昭和60年に石崎町の古い奉燈を譲り受け、大小1基ずつ持つようになった。文字はめでたい事がある前兆の雲を表している。現在のところ、前夜祭として駅前ロータリーで祭りを開催。駅前とあって観光客の誘客や祭り気分を盛り上げる大きな役割を担っている。